

# はじめに

香川県では、モータリゼーションの進展による交通混雑や都市域の拡大による人口の外延化などに対応するため、平成3年度に「総合都市交通計画」を策定して以降、各種の都市交通施策を実施してきました。

しかしながら、現在は人口減少や少子高齢化の進行、経済のグローバル化の進展などの社会経済環境の急激な変化により、都市構造や交通流動も大きく変化していることから、これらに対応しつつ将来にわたって持続可能な都市構造を再構築することが必要となっています。

こうした状況の中、香川県では県民の方々の豊かな未来を実現するために、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの取組みを柱とする施策を推進しており、まちづくりにおいて都市計画区域マスタープランに定める都市圏の将来像や目標に即し、集約型都市構造を支える交通体系の構築により、全ての人々が安心と生きがいを持って住み続けることができ、健やかな日々を謳歌できるまちを目指しています。

この度の「高松広域都市圏都市交通マスタープラン」は、県内の交通の実態把握や分析結果をもとに、都市交通の課題解決に向けて拠点間連携軸の強化、交通結節点へのアクセス性向上、拠点内周遊環境向上、公共交通利用促進、さらには中山間地域や島嶼部での公共交通ネットワークの再構築によるコミュニティの維持など、県内全域を視野に入れた戦略的な施策をとりまとめた都市交通のマスタープランとして策定いたしました。これは、国が昨年公表した「国土のグランドデザイン 2050」に示すように、人々の生活を支える住宅、医療、福祉、商業などの都市機能が集約された拠点を複数構築し、公共交通機関などでそれらをつなぐ「コンパクト+ネットワーク」による都市の再構築と合致するものとなっています。

今後、このマスタープランのもとに国、県、市町、交通事業者および県民の皆様が協力して、集約型都市構造の実現に向け、利便性と結節性に優れた公共交通ネットワークづくりを進め、過度に自動車交通に頼りすぎず、公共交通を中心とした交通体系の構築を目指し、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

結びに、県内交通の実態把握や分析を行うにあたって、パーソントリップ調査にご協力いただきました多くの調査対象者の方々に厚くお礼申し上げますとともに、本マスタープラン策定にあたって、多大なご指導、ご協力をいただいた高松広域都市圏総合都市交通体系調査委員会の委員の皆様、国、県、市町、交通事業者並びに関係機関各位の皆様に心から感謝申し上げます。

高松広域都市圏総合都市交通体系調査委員会 委員長

大阪大学大学院教授 土井 健 司